

第9回グランプリ(2022)「幸せな空気」 鹿野 洋平



茹だるような暑さの昼下がり。若いカップルの家へ壊れたエアコンの修理に来ている作業員の男性。彼は黙々と作業を続けるも、なんとカップルのあいだで別れ話が突然浮上して気まずいムードになってしまう。その時、思わぬ来訪者が現れて…。エアコンの空気、そして何より、気まずいこの部屋の空気を修復することは果たして可能なのだろうか!?

第10回グランプリ(2023)「伊藤のカルマ」 岡本 崇



アルバイト探していた伊藤はとある飲食店の店頭の募集広告を見つける。時給もかなり高く飲食の経験もあることから応募を決意、面接に臨むが何故か少しずつ噛み合わないまま予想外の結末を迎える…。

第11回グランプリ(2024)「クジラの背中で話すコト」 門田 樹



海辺で話すハルカと明生。ハルカは明生にシロナガスクジラの全長を尋ねる。明生はハルカに別れを切り出す。

事業の概要

「つくばショートムービーコンペティション」は、筑波研究学園都市の誕生50周年を記念し、2012年につくば市、つくば市民、公益財団法人つくば市文化振興財団、筑波学院大学との共催でスタートしました。

つくば市からの文化発信と次世代の才能の発掘を目指し、10分以内の短編映像の公募を行うもので、民・産・官・学の共催イベントは、全国でも非常に稀です。

第1回の審査員は、つくば市出身の映画監督中村義洋氏、つくば市長、筑波学院大学学長が担当し、つくば市民より募集した50名の市民審査員によって観客賞を選考しました。

現在では、実行委員会主催のイベントとなり、記念すべき第10回のコンペティションから新たな形でスタートしています。

つくば ショートムービー コンペティション 歴代グランプリ作品上映会

令和6年
11月9日(土)・10日(日)
10:00 ~ 16:00



つくばショートムービー
コンペティション
TSUKUBA SHORT MOVIE COMPETITION

主催：つくば市民文化祭実行委員会
つくば市民センター

第1回グランプリ (2013) 「REAL VALENTINE」 高島 瑛彦



いつの時代も学生は悩み苦しんでいる。そんな彼らに救いの手を差し伸べる秘密組織がこの大学にある。その名は「特殊部隊：学生支援室」今、彼らと学生が織りなす壮大な物語が始まる！

第2回グランプリ (2015) 「岐路」 大石 結介／上田 謙太郎



落ち込んだ時に、無理に頑張れとか言わずに、話を聞いてくれて、自分で前を向けるようになるまで傍で自然に笑っていてくれる、そんな「男の友情」。

第3回グランプリ (2016) 「友だちのカタチ」 2015 情報B



仲の良い女子大生4人組。ある日、今流行っているという”サイコパス診断”をすることに。偶然にも1人だけ、答えがサイコパスだったことで3人は僅かながらも恐怖を感じた。しかし、それは始まりにすぎなかった…。

第4回グランプリ (2017) 「前世、河童」 知多 良 (高橋 良多)



カコは夢で自分の前世が河童だったことを思い出す。その前世でカコは、河童の恋人と生まれ変わってももう1度一緒になろうと約束したことを思い出す。カコは友達のマコトと彼を探すため大和市の様々な場所を探しまわる。

第5回グランプリ (2018) 「つれない男」 小川 貴之



その男は川へ行く。妻に内緒で釣りに行く。素人の釣り人をあざ笑い、ただひたすら釣るのだった…。好きなことに依存する後ろめたさと滑稽さを表現した、ちょっとだけ奇妙な話です。

第6回グランプリ (2019) 「雪と、傘と、あの日の写真。」 菊地 貴太



高校三年生の優太は、自分の写真の才能と勉強に自信がなく、両方に諦めを感じていた。しかし、公園で出会った少女に写真を褒められることを通して徐々に自信を取り戻し、写真家になりたいという幼い頃からの夢を思い出す。諦めることをやめ、写真も勉強も頑張ってみようという決意を彼女に伝えたが、その日から彼女の姿を見ることはなくなった。

第7回グランプリ (2020) 「ストレスフルスイング」 山村 もみ夫。



ストレス解消のためにバッティングセンターに来た男のストレスがどんどん溜まっていく話。

第8回グランプリ (2021) 「KA. TA. MI.」 タイム 涼介



新人女優カタミが希望を胸に映画のオーディションに挑むが、審査員が発する辛辣な「言葉の銃弾」が、カタミの心身を撃ち抜く。しかし、くじけそうなカタミを救うのもまた、大切な人たちが残した「言葉の形見」だった。

